

読売新聞 きょう（6月12日）のイチ押し

一面など 日米韓 ミサイル探知訓練

日米韓の防衛相会談がシンガポールで行われました。北朝鮮が核・ミサイル開発を進めていることを受け、日米韓でミサイル警戒訓練や弾道ミサイルの探知・追尾訓練を実施する方針で一致しました。

- ★ 共同声明では「防衛に係る信頼醸成が重要」との認識を記し、自由で開かれたインド太平洋を推進するため、情報共有や共同訓練などの協力を深化させる方針を掲げました。また、「台湾海峡の平和と安定の重要性」を日米韓防衛相の共同文書として初めて明記しました。
- ★ 日韓関係が冷え込む中、2年半ぶりとなった日米韓防衛相会談の開催には米国の強い働きかけと仲介がありました。三面スクリーンではその舞台裏を各国ごとに解説しています。

社会面 旧JR三江線 廃線後の「足」模索続く

地域にとって最適な公共交通とは何でしょう。「ローカル線の行方」では4年前に廃止された旧JR三江線（広島県三次市～島根県江津市）の現状を紹介しています。

- ★ 2018年3月末の廃線後、14路線でバスの運行を始めましたが利用状況は改善されず、20年には10路線に再編。それでも赤字額は2億円に上り、国や広島、島根両県、沿線6市町が負担しています。
- ★ 島根県邑南町ではバスを廃止し、登録された住民が自家用車で利用者を送迎する「デマンド交通」を20年度から始めました。「好きな時間に目的地へ行ける」と好評で、利用者は大幅に増加、赤字幅は前年度の約半分にまで縮小しました。専門家は「自治体と住民が話し合い、需要に合った移動手段を模索すべき」としています。

他紙と比べて

2002年サッカー・ワールドカップ日韓大会の出場国カメルーンがキャンプ地を選んだのは大分県中津江村でした。九州の小さな村は一躍全国に名が知れ渡りました。その中津江村がキャンプ地に立候補したのには意外な理由がありました。「あれから」では、キャンプ招致の仕掛け人である元村職員・長谷俊介さんを取り上げ、当時のエピソードや後日談を紹介しています。